

集合 位相 + 演習

樋口さぶろお¹ 配布: 2007-12-04 Tue 更新: Time-stamp: "2007-12-14 Fri 11:14 JST hig"

11 内部・外部・境界

11.1 閉集合

11.1.1

略解

- | | |
|-----------------|--------|
| 1. 閉集合 | 2. 開集合 |
| 3. 開集合 | 4. 閉集合 |
| 5. 開集合でも閉集合でもない | 6. 開集合 |
| 7. 開集合 | 8. 閉集合 |

11.1.2

略解

- | | |
|-----------------|------------------|
| 1. 閉集合 | 2. 開集合でも閉集合でもない |
| 3. 開集合でも閉集合でもない | 4. 開集合でも閉集合でもない |
| 5. 閉集合 | 6. 開集合でも閉集合でもない |
| 7. 開集合 | 8. 開集合であり閉集合でもある |

11.2 有理数・無理数・実数の微妙な性質

11.2.1

略解

1. $\max A, \min A, \inf A$ は存在しない. $\sup A = \pi$. $\max B, \sup B$ は存在しない.
 $\min B = \inf B = \pi$.
2. $\min C, \inf C$ は存在しない. $\max C = \sup C = 3$. $\max D, \sup D$ は存在しない.
 $\min D = \inf D = 4$.
3. $\max E, \min E, \inf E, \sup E$ は存在しない. $\max F, \min F, \inf F, \sup F$ は存在しない.

11.2.2

略解 $\mathbb{Q}, \mathbb{R} \setminus \mathbb{Q}$ は開でも閉でもない.

¹Copyright ©2007,2008 Saburo HIGUCHI. All rights reserved.
hig@math.ryukoku.ac.jp, <http://hig3.net>(講義のページもここからたどれます), へや:1 号館 5 階 502.

11.2.3

略解 模範解答をつくらうプロジェクトで使用するかも

11.3 外点・境界点

11.3.1

略解

1. 境界点
2. 内点, $\epsilon \leq 1$
3. 境界点
4. 内点, $\epsilon \leq \frac{3}{2}$
5. 外点, $\epsilon \leq 101$.
6. 内点, $\epsilon \leq \min\{|1-x|, |-1-x|\}$.
7. 外点, $\epsilon \leq \min\{|1-x|, |-1-x|\}$.

11.3.2

略解

1. 境界点
2. 内点, $\epsilon \leq 2$
3. 内点, $\epsilon \leq \frac{1}{2}$
4. 外点, $\epsilon \leq 1$
5. 内点, $\epsilon \leq 2 - d(x, O)$.
6. 境界点
7. 外点, $\epsilon \leq d(x, O) - 2$.

11.4 外部・境界

11.4.1

略解 $A^i = (0, 1)$, $A^e = (-\infty, 0) \cup (1, 2) \cup (2, +\infty)$, $A^f = \{0, 1, 2\}$, $A^a = [0, 1] \cup \{2\}$

11.4.2

略解 $A^i = A$, $A^e = (-\infty, 0)$, $A^f = \{0\}$, $A^a = [0, +\infty)$.

(2) $A^i = A$, $A^e = \emptyset$, $A^f = \mathbb{N}$, $A^a = \mathbb{R}$.

(3) $A^i = \emptyset$, $A^e = \mathbb{R} \setminus (A \cup \{0\})$, $A^f = A \cup \{0\}$, $A^a = A \cup \{0\}$.

解説 実数と実数の集合を混同した解答をよく見かけました。気をつけましょう。

例えば、実数の集合を答えるところで、 $\{\mathbb{R}\}$, $\{\mathbb{N}\}$, $\{\emptyset\}$ など。 \mathbb{R} , \mathbb{N} , \emptyset などだけではそれだけで集合を表す記号ですから、さらに $\{\}$ にいれるのは変です。

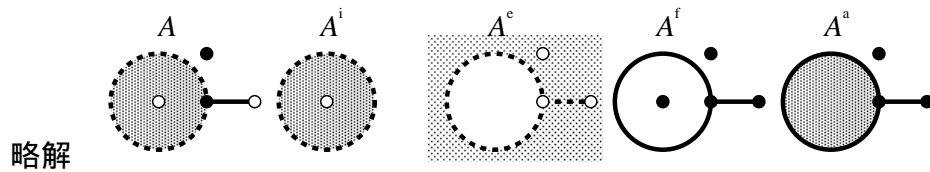
また、 $\{\mathbb{R} - \frac{1}{n}\}$ という答えも見かけました。 \mathbb{R} は集合、 $\frac{1}{n}$ は実数ですから、その間で演算をすることはできません。 たぶん $\mathbb{R} \setminus \{\frac{1}{n} \mid n \in \mathbb{N}\}$ を意図した答案でしょう。 これなら第2項が集合になりますから、 \mathbb{R} との間で差集合をとることが可能になります。

$\{\frac{1}{n} \mid n \in \mathbb{N}\} = (0, 1)$ と思ってる答案も時々見かけました。 左辺はとびとびの集合なので、べたっとある右辺とは違います (濃度で言うと左辺は \aleph_0 , 右辺は \aleph です)。

また、 $+\infty$, $-\infty$ は数ではなく、 \mathbb{N} , \mathbb{R} などの元ではなく、等式、不等式にも参加しません。 区間 $(0, 1) = \{x \in \mathbb{R} \mid 0 < x < 1\}$ ですが、 $(0, \infty)$ は $\{x \in \mathbb{R} \mid 0 < x\}$ の略記にすぎません。 したがって、 $\mathbb{R} \setminus (0, \infty) = (-\infty, 0]$ であり、 $+\infty \notin (\mathbb{R} \setminus (0, \infty))$ です。

3. では $0 \in A^f$ だということがいちばんのポイントです. 自分は A の元じゃないけど, どんなに小さい ϵ に対しても $N(x; \epsilon)$ は A の元を含むからなあ (例 $1/([2/\epsilon])$). ここで $[x]$ は x の整数部分).

11.4.3



11.4.4

略解 $Q^i = \emptyset, Q^e = \emptyset, Q^f = \mathbb{R}, Q^a = \mathbb{R}$.

$(\mathbb{R} \setminus Q)^i = \emptyset, (\mathbb{R} \setminus Q)^e = \emptyset, (\mathbb{R} \setminus Q)^f = \mathbb{R}, x(\mathbb{R} \setminus Q)^a = \mathbb{R}$.

